

読書のすゝめ

立志館セミナーから、この冬おすすめの本を紹介します。おもしろそうに思える作品があれば、ぜひ読んでみてください。

きりこは、

西 加奈子 (にし) かなこ 角川文庫 桐先生

「自分」の価値は、何で決まると思えますか？ 顔？ 性格？ 他人からの評価？ 周りを気にしてしまう人や、逆に自分を押し出してしまおう人に、この本を紹介しましょう。

「きりこは、ぶすである。」という衝撃的な一文で始まるこの一冊。序盤はいかにきりこがぶすか、ということがコミカルに描かれます。しかし両親の愛情をたっぷり受けて育ったきりこは、自分をぶすだなんて全く思っていない。そこで自信满满にある男の子に告白するのですが、皆の前で彼にぶすだと言われてしまいます。引きこもりになってしまったきりこのそばには、いつも猫がいました。後半はこの猫が大活躍！ きりこが「自分とは何か」を見つけた手助けをします。

読みやすく書かれているので、読書初心者も手に取りやすいと思います。きりこと一緒に「自分」を見つけていきませんか？

有頂天家族

森見 登美彦 (もりみ) とみひこ 井上先生 幻冬舎文庫

「面白くないのは良いことなりー」が口癖の矢三郎は、ためきの名門・下鴨家の三男。偉大な父を人間にためき鍋にされて亡くした後、矢三郎を含めた兄弟四人とも落ちぶれてしまう。しかし、名門である一族の誇りを取り戻すため、ある時は大学生に、ある時は虎に化け、面白主義の矢三郎が周囲を巻き込みながら、ふりかかってくるさまざまな問題を解決していく。そんな中、父の死の真相が明らかになり、矢三郎たち四兄弟は宿敵である夷川家に立ち向かう。

この物語は、ためきが主役の、一見するとファンタジー小説です。しかし、現代の京都を舞台とし、家族愛をテーマにしているため、みなさんにも共感できるところがあふれています。読み終わった後に心がほっこりする、温かくて笑えるお話です。



広島の探偵

ハマ カズシ 徳間書店 松本先生

行方不明になった母親を探すために、東京で探偵の修行をし、故郷の広島で探偵事務所を立ち上げた滝澤のもとに、立て続けに風変わりな依頼が来る。既に亡くなった主人の素行調査や、終わってしまったスニーカーの犯人捜し。

なぜ、現在進行中の時に依頼せず、終わってしまったから依頼するのか。そんな疑問を持ちながらも依頼を引き受けることに。調査を進めているとき、探偵事務所に届いた「調査を中止しろ」という謎の脅迫状。関係性のなさそうな二つの依頼が思わぬところでつながり、謎が解明されていく。

他人にとってはどうでも良くて、自分にとっては非常に大事なことがある、そんなことを考えさせられるミステリーです。

もらい泣き

沖方 丁 (つぶかた) とう 集英社文庫 高木先生

三十三話のショートストーリー集です。一話一話が短いので、長い話はちょっと……、と思う人でも、手に取りやすいのではないのでしょうか。読書の苦手な人にもおすすめです。

この短編集は作者が実話をもとに、創作したお話です。作者はいろいろな人に取材し、「泣ける」話を聞いたそうです。みなさんは、最近泣くことはありませんか。この本には、言葉では言い表せないけれども、あふれてくる気持ちが詰まっています。家族の愛情、人との出会いなど、人間は様々な場面で、多くの人や物に支えられているということに気づかされる一冊です。

きみにしか聞こえない

乙一 (おついち) 角川スニーカー文庫 中本先生

映画『君の名は。』が話題ですね！ 私は残念ながらもまだ観ていませんが、あらすじは読みました。あらすじを読んでいると、頭に浮かんだ本があります。『君の名は。』に興味のある人、こちらの一冊いかがですか？

横浜に暮らす女子高生のリョウは、人見知りな友人がいない。いまだぎ珍しく携帯電話を持たない彼女は、いつしか、自分だけの携帯電話を想像するようになったのだが、ある日、頭の中にしかないはずのその電話に着信が。彼女と同じく頭の中に携帯電話を持つ少年、シンヤ。彼からの着信がリョウの日常を変えた。互いが実在する人間であることを確かめた二人は、やがて、実際に会って話してみたいことを思いつくが……。

短編集に収録されているお話のうちの一つですから、すぐに読み終えることができます。読書が苦手な少年少女も、ぜひ！

また、同じ夢を見ていた

住野 よる (すみの) よる (双葉社 久常先生

「幸せとは何か。」こう聞かれると、意外と即答できないもの。主人公の少女・小柳奈ノ花も、ある日国語の授業でその問題を出され、悩んでいました。

奈ノ花は、本が好きで、他の子よりもちょっと賢い小学生。言いたいことや、正しいと思ったことはすべて言う性格のため、学校に友達はいませんでした。そんな奈ノ花が出会ったのは、高校生の「南」さん、とても格好いい「アバズ」さん、一人暮らしの「おばあちゃん」そして、尻尾の短い「彼女」でした。この三人と一匹は、奈ノ花にとって、知らないことを教えてくれる素敵な友達ですが、実はそれぞれ「やり直したいこと」を抱えて悩んでいる大人だったのです。

「幸せとは何か」を奈ノ花に問われ、一緒に考えていくうち、少しずつ自分の悩みと向き合い、答えを見つけていく大人たち。そして、そんな三人は、決して器用とは言えない生き方をしていく奈ノ花に、大切なことを伝えてくれるのです。

皆さんは、奈ノ花よりも少し大人ではありますが、きっと共感する部分は多いはず。だからこそ、この友達言葉に触れてほしいのです。大人になってから、「あの時こうすればよかった」と後悔しないために、奈ノ花と一緒に幸せについて考えてみてください。

ディズニー サービスの神様が教えてくれたこと

鎌田 洋 (かまた) ひろし ソフトバンククリエイティブ 山本先生

「与えることは最高の喜びなのだ。他人に喜びを運ぶ人は、それによって、自分自身の喜びを得る。」ウォルト・ディズニーの言葉です。

東京ディズニーランドや東京ディズニーシー。そのサービスは最高峰と言われ、スタッフは魔法が使える、とまで言われるほどです。

しかし、みなさんはその「魔法」がどのようにして生み出されているか、考えたことがあるでしょうか。スタッフだって人間です。最初から特別な存在ではないのです。みなさんと同じように家族や友達、恋人がいて、悩み、失敗し、挫折し、けれども、そこから立ち上がり、何かを感じ、何かを学び、そして、「魔法」が使えるようになるのです。

そんなディズニーランドという夢の国の裏側を、この本で少しだけ覗くことができます。読んだ後は周りの人に対する見方が変わるはずです。尚、読むときはティッシュかハンカチを横に置いておくことをお勧めします。

ホワット・イフ? 野球のボールを光速で投げたらどうなるか

山田先生

ランドール・マンロー (著)、吉田三知世 (訳) 早川書房

「もし○○だったらどう?」と誰でも一度くらいは、そんな想像をしたことがあると思います。

この本はそのような、ハカげた、けれどちょっと気になる疑問に元NASAの研究者でもある著者が物理(理科)と数学を使って全力で答えるという本です。

「どのくらい高い空から落としたりステークが焼けるのか」「ロンドンとニューヨークをつなぐ橋をゴブロックで作るにはゴが何個必要か」「お茶を必死にかき回したら沸騰させられるのか」等のくだらない疑問を一つ一つ真剣に検証していく様子に思わずワクワクします。

こうした突拍子もない思いつきも、理系の思考をこらして検討すれば、そこからは驚くべき結論が導き出されます。数学や理科が好きなのはもちろん、数学と聞いただけで頭が痛くなってしまうような人こそ、読む価値はあるのかもしれない。数学なんて大人になったら絶対に使わないから必要ないと思ってる人は、これを読んで考えを変えてみませんか。

コンビ二人間

村田 沙耶香 (むらた さやか) 名倉先生 文芸春秋

「普通が一番だよ」「普通に考えたらそつだよ」「普通にしていればいいよ」……『普通』って何ですか? そんなことを考えさせられる作品です。

主人公は三十六歳未婚女性、古倉恵子。大学卒業後も就職せず、コンビニのバイトだけして十八年目。恋愛経験もなく、趣味もなく、ただコンビニで働いたために生きている、タイトル通りの「コンビニ人間」です。

この経歴を見ただけで「え?」と思いませんでしたか? 『普通』なら結婚してる年齢です。『普通』は未婚だとしても代わりにきちんとした職に就いているはずですよ。主人公はそんな『普通』という概念に苦しみます。「なぜ結婚しないといけないの?」「なぜバイトはだめなの?」「素朴な疑問をぶつけているだけなのに周りのみんなは自分を変な目で見てくる。勝手な価値観で勝手に自分の人生を否定する……」

「この世界では異物は排除されるのだ。」という一文が印象的でした。どこかあつからんとした語り口で書かれているので、読んでいて暗い気持ちになることもなく、サクサク読み進められます。みなさんもこの本をきっかけに『普通』について考えてみませんか?

受け月

伊集院 静(いじゅういん しずか) 田中先生 文春文庫

由美は夫の悟を病気で亡くし、息子の茂と二人で暮らすことになりました。父から実家に帰ってくるように言われましたが、今住んでいる町を離れたくない、茂が大好きな野球をこの町でできるように、という気持ちで、残ることに決めました。

ある日、茂が野球をしている姿を「こっそり見に行きました。茂は試合に出してもらえず、ベンチで応援をしています。それでも野球が好きだと言ひ、楽しそうに練習や試合に出かけていく茂の気持ちが由美は理解できません。応援ではなく、悟のようにならなくては。そう思った由美がとった行動とは……」

風が強く吹いている

三浦 しをん(みづら しをん) 濱口先生 新潮文庫

主人公蔵原走は、高校時代陸上部に所属し、インターハイを制覇するなど素晴らしい結果を残した天才ランナーだった。しかし、短気で他人との衝突がたえない性格が関係してか、進学先の大学では陸上部に入らないという決断をくだす。

ある日、蔵原走は同じ大学に通う陸上部の清瀬灰二と出会う。清瀬灰二は、蔵原走が走っているところを偶然目撃し、陸上部にスカウトする。蔵原走は、清瀬灰二たちと一緒に箱根駅伝出場を目指すことになる。

人間的に未熟な主人公蔵原走が、陸上部の人たちとの関わりを通して成長していく物語です。自分がまわりの環境から受ける影響の大きさが分かる作品です。

三国志

吉川 英治(よしかわ えいじ) 高島先生 講談社

時は二世紀末(日本では卑弥呼の時代)、中国大陸を統一していた後漢が衰退し、世は乱れていた。民衆を苦しみから救うため、劉備、関羽、張飛三人の義兄弟が立ち上がる。漢王朝の復興は成るか? 群雄割拠の大陸を制する者はだれか?

誰もが知っている古典的名作ですが、意外と読んだことはないのではないでしょうか。中国大陸全土を舞台とした壮大な世界で、主人公たちの他にも、曹操、呂布、諸葛亮など魅力ある登場人物が躍動します。

シリーズ通せば全八巻、なかなか手を出しにくいかもしれませんが、一度手に取れば引き込まれること間違いなし!

武士道シックスティーン

菅田 哲也(ほんだ てつや) 八百先生 文春文庫

青春を剣道にかける女子二人の心の交流を描いた小説です。

一人は、宮本武蔵の「五輪書」を愛読書とする、熱血武道少女の香織。もう一人は、日本舞踊の延長で剣道を始めた、のんびり少女の早苗。この二人は、ある市民剣道大会で出会います。そして、負けることをなによりも嫌う香織が、なんと早苗に負けてしまいます。香織は、リベンジを誓い闘志を燃やしながらも、中学時代には再戦を果たせぬまま、高校に進学し剣道部に入部します。すると、そこには早苗がいたのです。さて、その後の二人はどうなるのか……

とことん熱い青春小説でありながら、クライマックスには、じんとくるような、それでいて、さすがらしい気持ちになれる、おすすめの一冊です。「やっばり、青春っ ていいなあーっ」とつくづく思えますよ。

英傑の日本史 智謀真田軍団編

井沢 元彦(いざわ もとひこ) 稲垣先生 角川文庫

二〇一六年、毎週日曜日の午後八時から、NHKの大河ドラマ『真田丸』が放送されていた。しかし、真田信繁(幸村)の生涯を追ったこのドラマもこの十二月で完結。年末は「真田口ス」に陥ることが予想される。これを予防するためにも、今年の初めに読んだ本書を、もう一度読み始めることにした。

真田信繁、言わずと知れた「日本一の兵」である。天下統一を果たした徳川家に対して一矢報いた彼の姿は、我々に「勇氣」を与えてくれる。

信繁の父である真田昌幸は、「表裏比興の者」として、武田家・織田家・北条家・徳川家・上杉家・豊臣家と主君を変えつつ真田家を守り抜いた策士である。家を守るために奔走する彼の姿は、我々に「戦略」の重要性を教えてくれる。

昌幸の父、真田幸隆。六文銭の家紋を考案した彼は、武田信玄の戦略の教師でもあり、忠実な家臣でもあった。真田家の基礎を築いた彼の姿は、我々に「基礎」の大切さを教えてくれる。勉強、そして高校入試にも「勇氣」「いい成績を取りたい、合格したい」という気持ち、「戦略」「効率的な勉強法や時間の使い方」「基礎」(反復練習や基礎知識)が重要であることは言ってもいい。これらを再確認するためにも、本書を読んでみてはいかがだろうか。

